



世界遺産への登録をめざす

武家の古都・鎌倉 ニュース

Vol.11

春号 / Spring 2009

第11号 平成21年(2009年)4月発行
発行：鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集：広報部会 編集人：内海恒雄

◆ 鎌倉の「顕著な普遍的価値」を考える ◆

「武家の古都・鎌倉」国際シンポジウム開催

「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録に向けた考え方などについて、文化遺産や歴史の専門家を海外から招き検討する国際シンポジウムが、文化庁と神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会との共催で、平成21年1月29日から2月1日まで葉山町の湘南国際村センターで開催されました。

この国際シンポジウムの目的は、武家文化の成立と発展の地としての価値を中心に現在検討が進められている鎌倉の登録に向けた考え方が、世界遺産の基準からどのように評価され、適合するのかなどについて、世界遺産登録の近年の動向に詳しい海外の専門家の意見を伺いながら協議・検討を行うことにより、今後まとめられる推薦書の原案の熟度を高め、より確実な登録をめざすことにあります。

英国のクリストファー・ヤングさん（イングリッシュ・ヘリテージ／考古学）、マルタのレイ・ボンディンさん（イコモス歴史都市委員会／歴史遺産保護）、中国のル・ズーさん（清華大学／歴史建築）が参加され、日本からは清水真澄さん（成城大学学長）、

五味文彦さん（放送大学教授、東京大学名誉教授）、西村幸夫さん（東京大学先端科学技術研究センター教授）をはじめとする鎌倉の推薦書原案作成委員会の方々や、稲葉信子さん（筑波大学大学院世界文化遺産学専攻教授）が参加されました。

1月29日、30日には鶴岡八幡宮や建長寺、鎌倉大仏や名越切通など候補資産の視察が行われました。その上で、31日には国内外の専門家による意見交換会が行われ、登録に向けて鎌倉がこれから取り組むべき課題などについて多くの意見が交わされました。31日は、米国のジョセフ・キングさん（文化財保護修復センター／文化遺産保護）が折よく来日されていたことから、意見交換会のみ参加されました。

2月1日には、こうした取り組みの成果を市民と共有することを目的に、国際フォーラムが開催されました。基調講演では世界遺産登録の近年の動向や鎌倉の世界遺産登録に向けた考え方などが報告され、パネルディスカッションでは登録に向けて強調すべき点などについての意見が出されました。

1月29日夜、 歓迎レセプションが 行われました



左から、ボンディンさん、ヤングさん、ルさん。

1月29日（木）午後7時から、湘南国際村にて国際シンポジウムの歓迎レセプションが行われました。三人の外国からの主賓の他、荻谷勇雅文化庁・文化財鑑査官、松沢成文神奈川県知事、石渡徳一鎌倉市長、中田宏横浜市長、平井竜一逗子市長、四県市の教育長他、関係者約90名が出席しました。会場には、ワシントンD.C.でも話題を集めたアートビーズ作家、金谷美帆さんの作品「鎌倉世界遺産登録絵図」屏風が国内で初めて展示されました。また、前日に伝統鎌倉彫事業協同組合から市に寄贈された「流鏑馬神事」の巨大な

レリーフも飾られました。各首長は固い意志を述べ、三人の主賓からも極めて好意的な挨拶がなされました。レセプションの最後に、推進協議会から三人の主賓に「散華」を寄贈しました。これは推進協議会事業部会の香山隆さんの発案と尽力により、鎌倉在住の日本画家、平松礼二さんに原画をお願いして作られたものです。作品は、武家の文化に想いを馳せて、琳派風に描かれた「さくら」「名月」「紅白梅」の三点で、扇面の台紙にならべ額装し贈呈しました。シンポジウムの初日を飾る素晴らしい式典でした。